

佐野鼎研究会の歩み

研究会代表 松平 和也
研究会世話人 内藤 徹雄

1. はじめに

開成学園の創立者が佐野鼎であることは、開成関係者の間では周知の事実ですが、初代校長高橋是清に比較してその事績はこれまで殆ど知られていません。まして、世間一般には佐野鼎は今なお殆ど無名の人です。

私たちは6年前（平成27年・2015）に発足した佐野鼎研究会で30余名の仲間とともに、創立者である佐野鼎の調査・研究を続けてきました。

その成果として、平成30（2018）年12月に、研究仲間佐野家子孫に連なるノンフィクション作家の柳原三佳氏が、小説『開成をつくった男、佐野鼎』（講談社）を上梓しました。さすが作家だけあって、これまでその人となり不明であった佐野鼎の生き様が、その時代背景とともに生き生きと描かれています。

幸いにも開成の全校生徒、教職員に配布され、創立者がいかなる人物であったかが周知されるとともに、卒業生の間でも様々な開成OB会を通して拡散し、好評を博しています。

本研究会は当初から、佐野鼎に興味と関心を持つ人であればだれでも参加できる、オープンかつ緩やかな研究会を目指してきました。研究会の参加者は開成関係者が約半数ですが、他に佐野家子孫や万延元年遣米使節子孫の会、赤松小三郎研究会の会員の皆様、そして鼎の出身地の静岡県や活躍の地であった金沢の郷土史家と、多彩な方々が参加されています。

さて、思いもよらぬコロナ禍という厄災に見舞われて、令和2（2020）年初頭より研究会は休止を余儀なくされました。これまでに15回の研究会を催しましたが、東京だけでなく、佐野鼎の生まれ故郷の富士市、活躍の場金沢市でも開催してきました。また一昨年3月には『開成をつくった男、佐野鼎』の出版記念会を「開成学園発祥の地」の記念碑があるお茶の水の淡路公園に隣接するワテラスで開催し、加えて、同年11月には、富士市で市民向けの講演会を、静岡県東部開成会（会長平賀聖悟氏、昭和35卒）、駿河郷土史研究会と佐野鼎研究会の共催で開催しました。

以下にこれまでの佐野鼎研究会の歩みを記します。

2. 発足の経緯

校史を紐解くと、『開成学園90年史』（昭和36年刊）に田村寿氏の「建学の父佐野鼎先生略伝」が掲載されています。また『佐野鼎と共立学校—開成の黎明—』と題した創立130年